

施策マネジメントシート

作成日 平成 30 年 8 月 31 日

施策	No. 19	子どもの健やかな成長を支える環境づくり				
施策 主管課	子育て支援課	氏名	太田孝生	施策 関係課	生涯学習課、教育総務課	

1. 現状把握 Plan→Do

(1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇児童・生徒 ◇青少年	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 笛吹市の人口(6~18歳) 人
	b
	c
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇子どもの居場所づくり ◇(青少年が)社会性を身につける。 ◇(青少年に)非行や問題行動をおこさせない。 ◇児童虐待が行われている家庭への支援。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 虐待相談件数 件
	e 子どもクラブ等の青少年関係団体に加入している小中学生の割合 %
	f 所轄警察署管内の不良行為少年補導件数 人
	g 放課後、休日の児童館を利用する児童・生徒の数 人
	h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇子どもの健やかな成長を妨げる行為を虐待相談件数で把握する。◇子どもクラブ等青少年関係団体に加入することで、社会性が身につくと判断する。◇非行や問題行動の実態を不良行為少年補導件数で把握する。◇子どもたちが安全・健やかに活動できる拠点の状況を児童館を利用する児童・生徒の数で把握する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇虐待相談件数は児童課で把握◇生涯学習課の既存データ(子供クラブの安全保険加入者数/6歳~15歳)により青少年関係団体加入者数を把握◇所轄警察署管内の不良行為少年補導件数で把握◇放課後、児童館を利用する児童・生徒の数は児童課で把握

			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
			実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	最終目標	
対象指標	a 笛吹市の人口(6~18歳)	人	見込み値	9,450	9,450	9,450	9,450	9,450	9,450	
			実績値	9,453	9,295	9,052	8,822	8,621	8,368	8,180
	b		見込み値							
			実績値							
	c		見込み値							
			実績値							
成果指標	d 虐待相談件数	件	成り行き値	95	99	101	103	105	107	155
			目標値		95	95	95	95	95	145
			実績値	97	52	90	56	68	152	100
	e 子どもクラブ等の青少年関係団体に加入している小中学生の割合	%	成り行き値	64.0	63.5	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
			目標値	65.0	65.5	90.1	90.6	91.1	91.6	92.1
			実績値	58.9	89.6	97.4	96.6	-	-	-
	f 所轄警察署管内の不良行為少年補導件数	人	成り行き値	334	334	475	451	428	407	387
			目標値	330	400	334	317	301	286	272
			実績値	519	561	690	591	900	513	654
	g 放課後、休日の児童館を利用する児童・生徒の数	人	成り行き値	27,000	30,000	31,500	33,000	34,500	36,000	29,500
			目標値	30,000	31,500	33,000	35,000	37,000	39,000	29,700
			実績値	27,049	30,468	30,373	32,469	29,774	29,682	29,008
h		成り行き値								
		目標値								
		実績値								
施策コスト	事務事業数		本			16	17	20	20	19
	事業費 (A)		千円	174,163	175,047	182,046	180,216	243,240	215,957	228,198
	うち一般財源 (A')		千円	112,451	111,672	117,434	111,134	109,335	111,476	119,464
	人件費 (B)		千円	29,339	29,318	28,634	29,522	34,891	26,916	86,926
	トータルコスト (A+B) (C)		千円	203,502	204,365	210,680	209,738	278,131	242,873	315,124
施策に係る事務事業コストの合計		うち一財 (A'+B) (C')	千円	141,790	140,990	146,068	140,656	144,226	138,392	206,390

(3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

◇後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。
 ◇虐待相談件数: H28年度から虐待相談の基準が変更されたため、H28年度の数値を基に成り行き値・目標値を設定し直した。相談者への適切な対応や関係機関との連携により相談件数の減少を図る。
 ◇子どもクラブ等への加入率: 成り行き値は、H24年度実績値を基に90%と設定。目標値は、毎年0.5ポイントの増加と設定。(ただし、H23年度は高校生までを含む)
 ◇所轄警察署管内の不良行為少年補導件数: 成り行き値は、H20~H23年度までの平均値を基に毎年5%程度の減少と設定。目標値は、過去の最低値を基に毎年5%程度の減少と設定する。
 ◇放課後、休日の児童館を利用する児童生徒の数: H28年度の実績値を基に成り行き値・目標値を設定し直した。特色あるイベントの開催などにより利用数の増加を目指す。

(4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇住民(保護者)は、家庭でのしつけを行う。 ◇住民(地域)は、いつでもどこでも青少年を見守り、地域ぐるみでの子育て体制に取り組む。 ◇青少年関係団体は、子どもの見守りや青少年健全育成のための活動を行う。 ◇児童生徒は学童保育施設のルールを守る。 ◇住民(地域)は児童虐待を発見したら市へ通告する。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇市は、青少年コーディネーターを配置し、青少年や保護者の相談をうける。青少年育成推進協議会等の組織を育成する。児童生徒の学習の場として、体験学習教室等を行う。 ◇学校と地域は、多様な校外活動を展開し、地域の教育力を高める。 ◇国・県は、インターネット社会の環境悪化に対して法的対応を行う。 ◇市は家庭相談員、母子支援員を配置し、児童養育の相談指導、自立に必要な情報提供及び指導を行う。
--	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

<p>◇青少年に有害な情報が携帯サイトやインターネット上に氾濫◇青少年育成関係団体の活動が固定化し緊張感や危機感が薄らいでいる。◇深夜営業をしているアミューズメント施設や公園など、深夜から早朝にかけて青少年のたまり場となりやすい施設があることから、所轄警察署及び青少年育成推進協議会役員を中心にパトロールの強化を行っている。◇小中学校安全安心メール運用開始◇放課後の子どもを対象にした学童保育や生涯学習課における放課後子ども教室の充実を図った。</p>	<p>◇家庭教育を充実すべきだとの意見がある。 ◇市民ワークショップで、地域ぐるみでの子育て体制(子どもクラブ)に取り組みたいとの意見が出た。 ◇通学路への防犯カメラや防犯灯整備の要求がある。 ◇不審者対応を強化して欲しいとの声がある。</p>
--	--

2. H29年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目標値より高い実績値だった ○ 目標値どおりの実績値だった ● 目標値より低い実績値だった 	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇虐待相談件数は、目標値145件に対し、実績値100件。昨年度より45件減少した。(虐待が疑われる事案について、警察から児童相談所へ事前に照会することとしたため、警察からの調査依頼の件数が減少した。)</p> <p>◇放課後、休日の児童館を利用する児童・生徒の数は、目標値29,700人に対し、実績値29,008人で目標値を下回った。(人口減少による児童数の低下が要因と考えられる。)</p> <p>◇子どもクラブ等の青少年関係団体に加入している青少年の割合は、H26年度まで育成会等により子どもクラブ安全保険加入者数により関係団体加入者数を把握していたが、H27年度よりこの保険には加入しなくなったことにより数値の把握ができなくなった。</p> <p>◇所轄警察署管内の非行少年及び補導数は、目標値272人に対し、実績値654人と高い数値となっている。なお、補導数は、前年度より141人増加している。</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 成果がかなり向上した ○ 成果がどちらかと言えば向上した ● 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) ○ 成果がどちらかと言えば低下した ○ 成果がかなり低下した 	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇虐待相談件数は、H27年度68件、H28年度152件と増加傾向であったが、H29年度は100件(前年度との比較では大幅に減少しているが、原因は上記のとおりである。)</p> <p>◇放課後、休日の児童館を利用する児童・生徒の数は、H27年度29,774人、H28年度29,682人、H29年度29,008人と減少傾向であった。(人口減少による児童数の低下が要因と考えられる。)</p> <p>◇子どもクラブ等の青少年関係団体への加入率は、H26年度96.6%、H27年度以降については、子どもクラブ安全保険には加入しなくなったことにより数値の把握ができなくなった。</p> <p>◇所轄警察署管内の非行少年及び補導数は、H27年度の900人から、H28年度には513人と大きく減少したものの、H29年度には654人と再び増加している。</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他自治体と比べてかなり高い成果水準である ○ 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である ○ 他自治体と比べてほぼ同水準である ● 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である ○ 他自治体と比べてかなり低い成果水準である <p>比較自治体名</p> <p>山梨県</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇虐待相談件数は、笛吹市100件(県内比7.75%<8月>)、山梨県1,290件であった。(人口割合:笛吹市0.14%(100人/69,861人)、山梨県0.15%(1,290人/818,455人))とやや低い数値となっている。</p> <p>◇放課後、休日の児童館を利用する児童・生徒の数は、笛吹市29,008人、山梨県はデータが無いことから比較困難。</p> <p>◇子どもクラブ等の青少年関係団体への加入率は、H27年度よりこの保険には加入しなくなったことにより笛吹市、山梨県ともにデータが無いため比較困難。</p> <p>◇所轄警察署管内の非行少年及び補導数は、笛吹市654人であり、山梨県全体の4,606人のうちの14.2%を占める状況にある。昨年度の県全体に占める割合11.3%から上昇している。</p> <p>◇笛吹市は子供向けの学習講座の機会も多く、子供クラブ球技大会の参加者も多いことから地域での教育力が県内でも高いと思われる。</p>

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

対象指標名称⇒ 笛吹市の人口(6~18歳)	(単位)	27年度	28年度	29年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目 a)	人	8,621	8,368	8,180	◇対象指標となる笛吹市の人口(6~18歳)が減少したことから、コストが上昇し、効率性も低下した。また、成果についても、十分な結果が得られていないと言えない状況である。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A/D)	円	28,215	25,807	27,897	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B/D)	円	4,047	3,217	10,627	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C/D)	円	32,262	29,024	38,524	

3.最終的な施策の総括 Action

(1)達成状況の分析(理由と改善点)

<p>◇(学童保育の充実)・・・放課後児童健全事業による学童保育の充実と放課後子ども教室等による就労支援(活動の場の充実)・・・児童館の充実 (体験、交流機会の充実)・・・児童館、支援センター施設における世代間交流、異年齢児の交流機会の充実</p> <p>◇保護・援助を必要とする子どもへの支援 (児童虐待等の防止)・・・児童虐待やいじめ等の発生抑止するための心の健康づくり、虐待の早期発見と専門職による被害を受けた子どもの心のケアや家庭相談の支援 (保護を必要とする児童等への支援)・・・保護者の疾病、恒常的に家庭における監護が困難な子ども等への支援</p> <p>◇更なる情報化社会への急激な変化に伴って新たな非行傾向が見られ、対応に苦慮している。</p> <p>◇地域住民の防犯意識が高まり暴力団排除運動や自主的な防犯パトロールなど住民の率先行動が盛んになってきている。</p> <p>◇家庭教育において青少年の防犯意識を高める。</p> <p>◇学校・地域・団体が防犯意識を高める取り組みを行う。</p> <p>◇青少年を対象にしたイベント等を検証し、参加を促すとともに、地域のリーダー育成に努めている。</p> <p>◇娯楽施設等に対して、青少年防犯体制の協力を呼び掛けている。</p>
--